令和元年度　大学生の力を活用した集落復興支援事業

調査研究報告書

福島県会津若松市大戸地区の地域活性化策について

公立大学法人　会津大学短期大学部　OOTO プロジェクト

令和２年２月

目次

1. はじめに

2. 大戸地区の概要と問題意識

3. 活動スケジュール

4. 現地調査

5. パイロット事業

6. 講座＆ワークショップ

7. 住民アンケート調査

8. 活性化のシナリオ

9. おわりに

1. はじめに

私たち，会津大学短期大学部 OOTO プロジェクトは，会津大学短期大学部産業情報学科経営情報コース青木研究室 2 年生の 9 名（代表小澤夢芽，京谷萌花，後藤悠衣，坂川美都，佐藤美紗，橋本琉花，秀島弘晃，丸山英恵，宮田伸一）で構成されている．なお，次年度以降事業を引き継ぐ青木研究室 1 年生 5 名（荒川瑳慧，大久保柚那，佐藤夢空，篠木友愛，橋本侑香）も 2 年生のサポート役として活動を行った．事業の実施にあたっては，大戸地区区長会，大戸公民館，会津若松第 3 地域包括支援センター，会津若松市地域づくり課の方々に多くのご協力を頂いた．またパイロット事業として行った竹を活用した流しそうめんでは，大戸地区の老若男女様々な住民の方と触れ合うことができ，活性化策のワークショップでは，大戸地区の資源や将来について熱い思いを語ってくださった．今後は大戸地区の美しい里山景観を守る活動とともに，このような元気な住民の方を PR していきたいと思った．

2. 大戸地区の概要

大戸地区は，会津若松市の南部，下郷町との境に位置しており（下図の赤い点で示す），中心市街地まで車で約 30 分かかる．芦ノ牧温泉や大川ダムが立地しているものの，近年，高齢化と人口減少が加速している．土地面積，人口，世帯数，高齢化率は以下の通りである．

- 土地面積　　：59,644km^2
- 人口（H31/4）　：1,480 人
  うち 20 歳未満　：130 人
- 世帯数(R２/１)：681 世帯
- 高齢化率（H31/4）
  ・大戸地区　　：47.8%
  ・会津若松市全体：30.2%

大戸地区には，温泉街があり，稲作，果樹栽培がおこなわれていたりと，豊かな自然資源に恵まれている．一方，地域の人口は，10 年で 404 人（16.4%）減少し，少子高齢化が進んでおり，農業後継者不足や，森林の荒廃，コミュニティ機能の低下が問題となっている．そこで，まずは大戸地区に多く植生し，放置され荒廃が目立つ竹林に着目し，竹を使った取り組みを住民と一緒に行っていく中で，地域の活性化について考えていくことにした．

3. 活動スケジュール

令和元年度行った活動は以下の通りである．

6 月 20 日　顔合わせ
7 月 24 日　事業説明と協力依頼
8 月　9 日　現地調査
　　14 日　芦ノ牧温泉夏祭り盆踊り大会で「流しそうめん」　@芦ノ牧温泉街
　　15 日　大戸町夏祭りで「流しそうめん」　@会津鉄道芦ノ牧温泉駅前
　　24 日　子どもまつりで「流しそうめん」　　@大戸公民館
9 月 29 日　竹活用講座とワークショップ
11 月 3 日　大戸町文化祭で　「竹とんぼ」づくり　@大戸小学校
11 月～12 月　住民アンケート調査
1 月 22 日　調査報告会
2 月 8 日　「地域づくりオープンカフェ」での報告

調査報告会　　令和 2 年 1 月 22 日

4. 現地調査：竹林の状況確認，試作

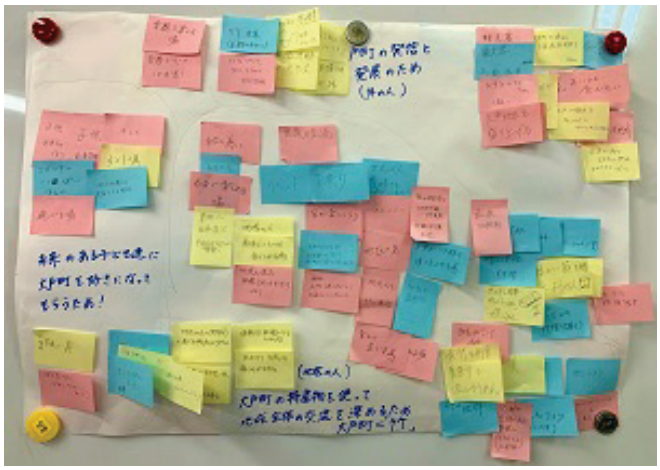
令和元年 8 月 9 日(金)，大戸公民館周辺の竹林で地域の方の案内で竹林の状況を確認し，竹の活用に向けて材質の調査，竹を切って加工，流しそうめんの練習を行った．

5. パイロット事業：流しそうめんによる交流

芦ノ牧温泉夏まつり盆踊り大会，大戸町夏祭り，子どもまつりの三つのお祭りで流しそうめんを行った．流しそうめんは，どの会場でも特に子どもたちに大好評だった．また，地域の大人が楽しんでイベントを運営している様子も印象的だった．

6. 竹活用講座＆ワークショップ

令和元年 9 月 29 日(土)，大戸公民館で竹活用の専門家である会津大学短期大学部のシム・テークチン先生を講師に招き，大戸地区の竹の特性や活用の可能性についてアイデアを練る講座とワークショップを行った．その話し合いの中で，まずは地区の文化祭で子どもを対象にした竹トンボづくりをしたい，との声があがり，造形ワークショップが専門の会津大学短期大学部の葉山亮三先生に指導してもらい，地域の高齢者と子どもが一緒になって，竹トンボづくりを楽しんだ．



令和元年 11 月 3 日(日)，大戸小学校で開催された大戸文化祭で，竹トンボづくり教室を行った．

7. 住民アンケート調査

調査の目的と方法

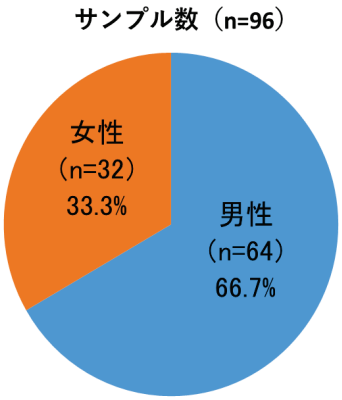
本調査は，大戸地区住民の生活環境や支え合い，まちづくりに対する意識や課題を把握し，今後の地域活性化の方向性を検討する基礎資料とする．

なお，調査対象者，調査期間，調査方法等は以下の通りである．

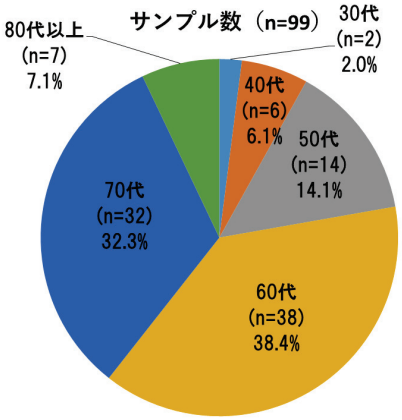
① 調査の名称　大戸地区地域づくりアンケート調査
② 回収調査票数　111 件
③ 調査時期　2019 年 11 月 1 日～17 日
④ 調査方法　組長さんによる配布と回収
⑤ 調査項目　・生活環境について(買い物，公共交通，医療，防災・防犯，教育環境，鳥獣害対策，文化振興，若者定住など)
・つながりや支え合いについて(見守り活動，サロン活動，移動支援，生活支援，相談できる人など)
・まちづくりについて(地域資源，竹の活用，地域運営組織など)

本調査の回答者の属性は以下の通りである．

図表１　男女構成比

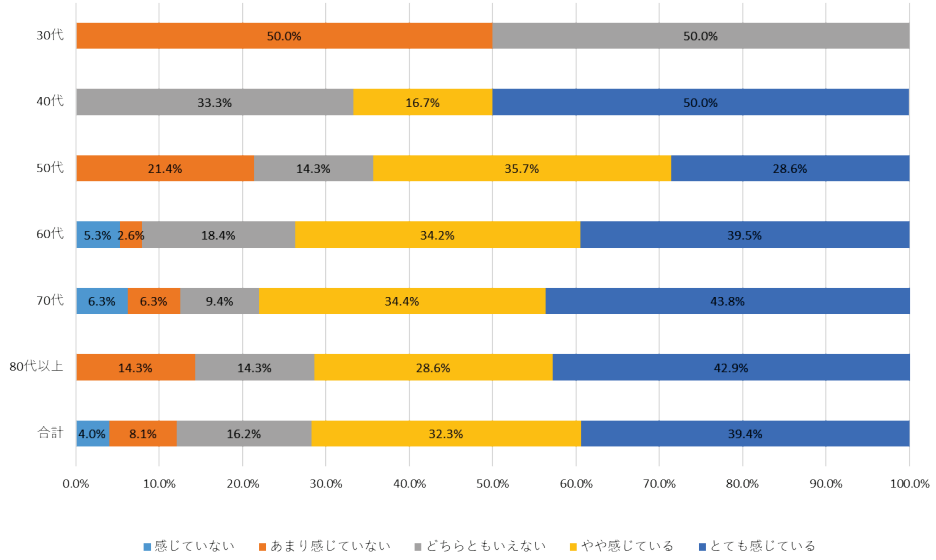


図表２　世代別構成比



次に地域への愛着について世代別に表したものが図表３である．30 代を除き，すべての年代で愛着をとても感じているといえるが，人口減少や高齢化の影響で活気がなくなっているとのご意見もあったため，若者が長く住み続けられ，愛着が湧くような環境に変えていく必要がある．大戸地区の将来を担う若者たちはどうすべきなのか，率直な議論が求められるだろう．

図表３　地域への愛着



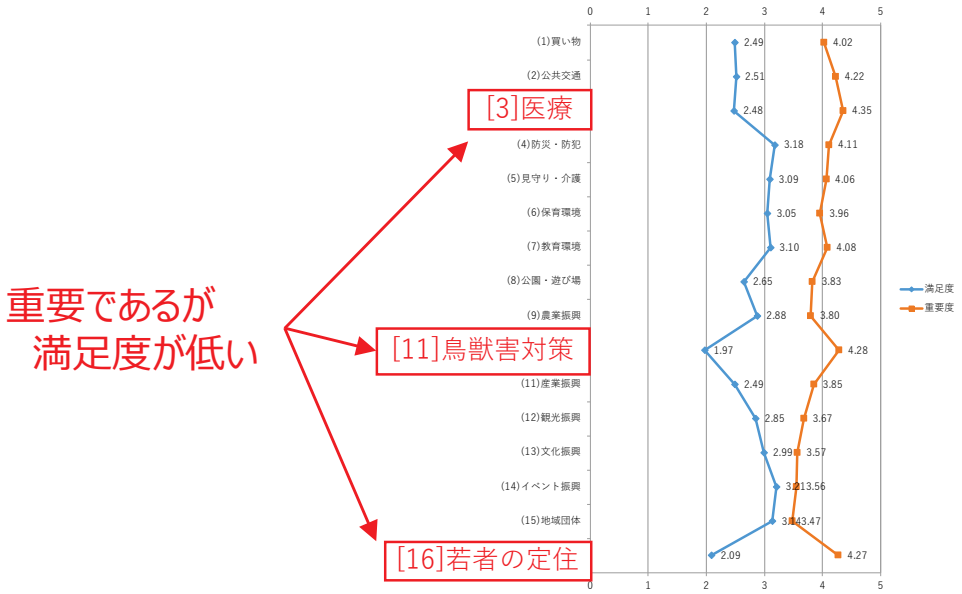
図表４は，様々な生活分野における満足度と重要度について，満足度ではとても満足，満足，どちらともいえない，不満，とても不満の 5 段階，重要度では，とても重要，重要，どちらともいえない，重要ではない，まったく重要ではない，の 5 段階による平均値での比較を行った結果である．青色が満足度の平均値，赤色が重要度の平均値を示している．

調査した 16 項目の中で，最も満足度が高かったのは，[14]スポーツやまつりなどイベントの振興で 3.21 ポイント，反対に最も不満なのが[10]鳥獣害対策で，1.97 ポイントと低い結果になった．

一方重要度を比べてみると，[3]医療，[10]鳥獣害対策，[16]若者定住の重要度が総じて高く，[15]地域団体のあり方に対して，と[14] スポーツやまつりなどイベントの振興の重要度が低い評価となった．

[1]日用品の買い物，[2]公共交通，[3]医療などなど高齢者の生活の支えに関する満足度はほぼ横並びで，現状では満足できる水準に到達していないと推察される

図表４　住民生活 16 分野の満足度と重要度



図表５は，地域生活 16 項目の重要度と満足度をクロス集計することで，類型化を試みたものである．これによって地域が抱える課題の特徴が浮かび上がる．

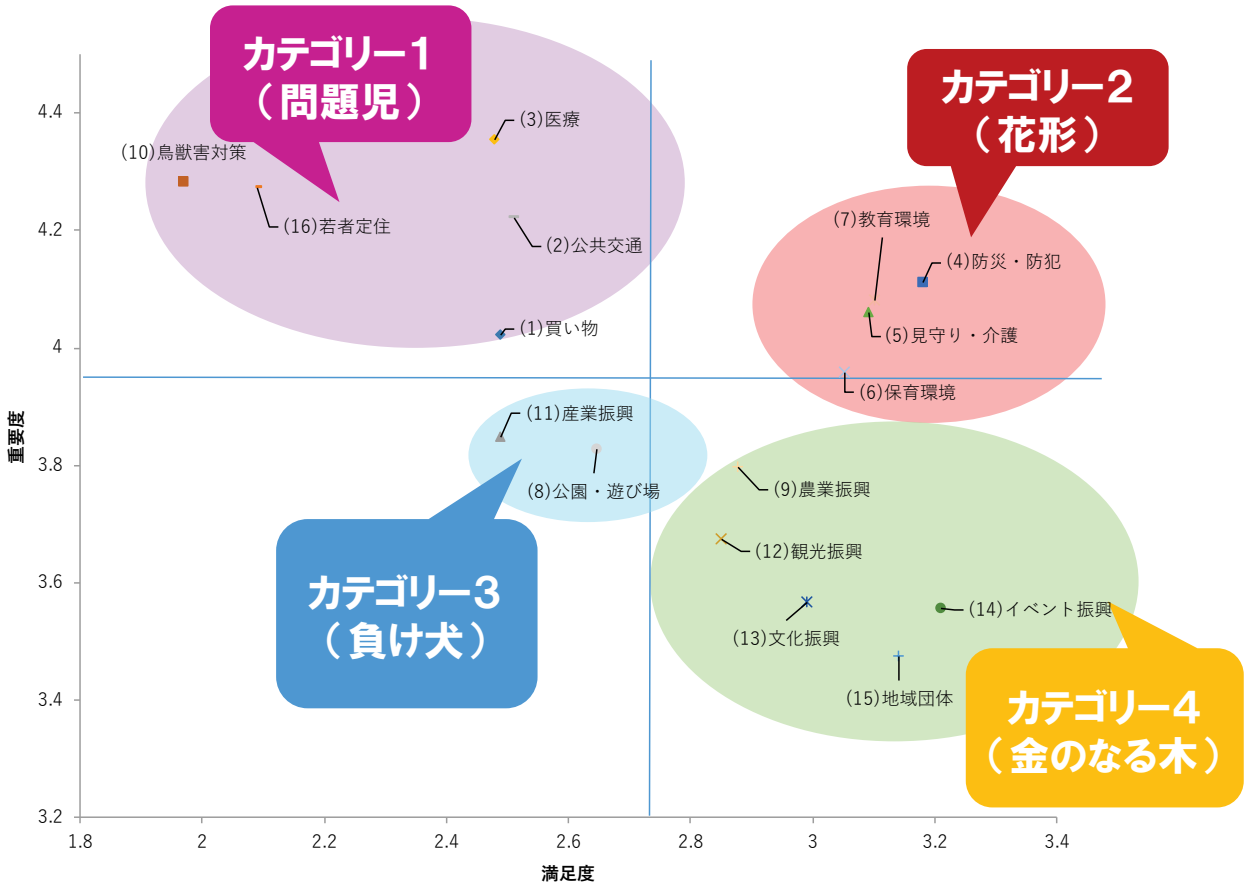
カテゴリー1 は，現状は満足できる水準ではないが，重要度が高い項目であり，地域で優先して取り組むべき課題，言わば地域にとっての「問題児」的な課題といえる．「買い物」「公共交通」「医療」「鳥獣害対策」「若者定住」の 5 項目が該当する．

カテゴリー2 は，重要度が高く，すでに相当満足できるサービスが提供されている項目で，「防犯・防災」「見守り・介護」「保育環境」「教育環境」がこれにあたる．現在，地域の「花形」であるこれらサービスの担い手は，現状水準を維持しながらも，カテゴリー1 の項目に貢献できるようなやり方を工夫することが求められる．

カテゴリー3 は，重要度も満足度も相対的に高くない「負け犬」項目であり，事業の計画と実施にあたっては無意識に継続せずに，絶えず効果検証することが必要である．ただし，これまで十分な活用がされてこなかったために，うまくいっていない「宝の持ち腐れ」の面もあるため，やり方次第では大きく伸びる可能性もある．「公園・遊び場」「産業振興」が該当する．

カテゴリー4 は，満足度が高いものの，重要だとは認識されていない項目であり，「農業振興」「観光振興」「文化振興」「イベント振興」「地域団体」があてはまる．実施体制や回数などをスリム化して，カテゴリー1 の項目に人的資源や財源などを振り分ける戦略的な取組みが求められる．

図表５　住民生活 16 分野の満足度と重要度（散布図）

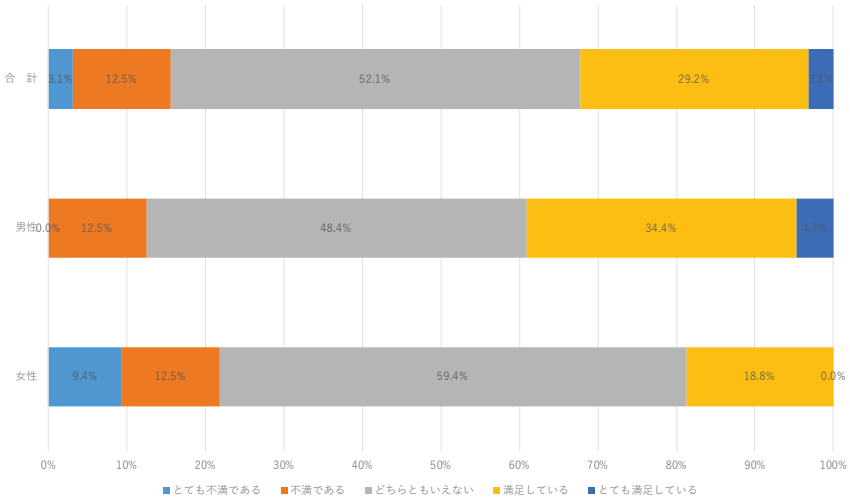


次に今回調査した 16 項目の満足度の中で，唯一男女による有意差が確認された防災や防犯活動について示したのが図表 6 である．上から男女合計，真ん中が男性，一番下が女性として，左から青色がとても不満，赤が不満，緑がどちらともいえない，紫が満足，水色がとても満足を示している．

一番上の男女合計では，「とても満足している」「満足している」を合わせると全体の約 30%を占め，今回調査した生活分野の満足度 16 項目の中でも上位 2 位に該当した．

一方，男性の 1/3 以上が「満足している」と回答しているものの，女性はその半数ほどの回答であるため，さらに女性の視点を重視して，安心して生活できる防災・防犯活動が必要とされている．

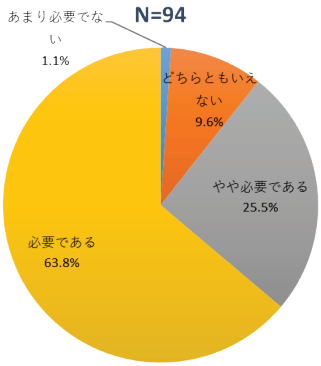
図表 6　防災や防犯活動の満足度



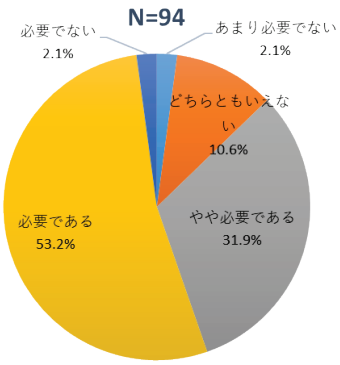
P=0.0444

図表 7 ～ 9 は，地域での支え合い活動 3 項目にの必要性について，「必要である」「やや必要である」「どちらともいえない」「あまり必要ではない」「必要でない」の 5 段階評価で集計を取り，構成比グラフで表したものである．なお 3 項目すべてにおいて，性別によるカイ二乗検定の結果，有意差はみられなかった．

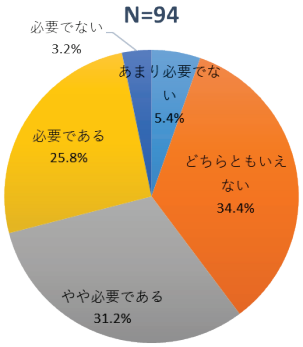
図表 7　見守り活動（安否確認）



図表 8　除雪支援



図表 9 誰でも立ち寄れる居場所



考察

- ✓ 全体の6割の人が大戸地区が住みやすいと考えているが、年齢とともにその比率は下がる傾向がある。
- ✓ 30代を除き、全ての年代で地域に愛着をとても感じている。若者の愛着度が低いため、若者が長く住み続けられ、愛着が湧くような環境に変えていくにはどうするべきか、大戸地区の将来を担う若者には、当事者としての率直な議論が求められる。

- ✓ 生活分野について、総じて現状に満足している。
  ただし、鳥獣害対策、若者定住に対して不満を感じている人が多い。

- ✓ 重要と考えている分野は、鳥獣害対策、若者定住、医療、公共交通、防災・防犯の順になった。

- ✓ 性別によって、満足度に差が見られたのは防災・防犯活動で、女性に不満が多いことから、女性の視点を活動に取り入れる必要がある。

- ✓ 重要度については、性別による差が見られなかった。男性の約9割が若者定住の重要性を認識しており、何らかの取組みが期待される。

- ✓ 地域とのつながりに関して、体調不良となり、家族が近くにいない場合近所の人に助けてもらいたいと考える人が一番多い（51名）。
- ✓ 一方で、近くに相談できる人がいないと答えた人が全体の2割いる。

- ✓ 地域での支え合い活動について、総じて高い必要性を感じているが、大別すれば、①見守り活動と除雪支援の必要性は9割、②移動支援、サロン、居場所の必要性は7割、③配食サービスと生活支援は4割となっている。
- ✓ 地域での支え合い活動への利用や参加意向について、男女全体を通して「見守り」「除雪支援」の項目で利用・参加したいと回答した人が多いことが読み取れた。除雪の頼りになる男性から多くの回答があった。

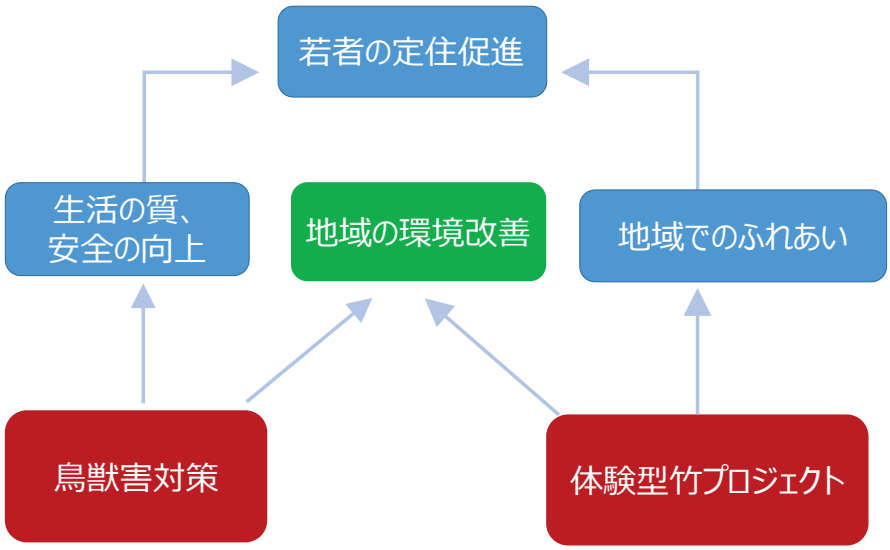
- ✓ まちづくり組織について、今すぐ必要が22.8%、今後必要が66.3%で合わせて9割の人が必要性を認識している。その理由として、地域の活性化や若い家族が住みたいと思える地域にするためとの回答が得られた

- ✓ 竹活用のアイディアでは、竹炭によるもの、加工品としての活用、木酢液やチップとしての活用、イベントでの活用が挙げられた。

8. 活性化のシナリオ

アンケート調査から，住民の関心が最も高いテーマは若者の定住と鳥獣害対策であること，一人暮らしが増えていて近所での会話や子供たちとのふれあいを望んでいること，防犯や防災に女性の視点を取り入れることが安全・安心なまちづくりに必要だと考えていること，若者が長く住み続けられ愛着がわくような環境に変えていくために将来を担う若者が地域の将来を真剣に考える場が必要であることが，判明した．

そこで私たち，会津大学短期大学部 OOTO プロジェクトが提案する活性化のシナリオでは，①鳥獣害対策」を通じてまずは生活の質，安全の向上をはかり，②体験型の竹プロジェクトによって地域でのふれあいの向上をはかる．これら 2 つのを取組みにより地域環境の改善が図られ，最終的には若者に魅力的な地域をつくり，定住促進を目指したい．



プロジェクト案①　鳥獣害対策

- アンケート結果から重要度は高いが満足度が低いことが判明

- 「費用」である鳥獣害対策を「機会」にしたい
  →猟友会の高齢化や後継者不足への対応
  「狩りガール」に向けた研修
  →ジビエ料理の開発等、産業の振興へ

- 大戸の安全性を高め、定住者やＵターン・Ｉターンの増加を促す

プロジェクト案②　体験型竹プロジェクト

- 大戸地区や地区外の小中高生を対象に、竹の伐採から加工まで通年での体験型プロジェクトを行う
- 竹を使って笛や木琴などの楽器づくりにも、親子で取り組む
- 竹の講座・伐採・加工については、地元の方に加え、本学の教授や学生、さらには企業にも協力を呼び掛ける

9. おわりに

私たちは、大学で経営学を中心とした学問を学んでおり、経営的視点から集落復興について考えた。現地調査、パイロット事業の実施、アンケート調査を通じて大戸地区のまちづくりや地域活性化の方向性についていろいろと考察したが、どの事業においても、子どもから高齢の方まで、たくさんの方が活動に積極的に参加してくださり、かつ楽しんでいる光景がとても印象的だった。そのような方々がますます輝き、さらに大戸地区がさらに発展をしていけるよう、今後も貢献していきたい。

本活動をするにあたり、惜しみない協力をして頂きました大戸地区区長会長小山様、副会長渡部様、大竹様、大戸地区公民館杉原館長、会津若松第 3 地域包括支援センター羽田所長、森山様、小柳様、会津若松市地域づくり振興課渡部様、長谷川様など多くの支援者の皆様に深く感謝申し上げます。

令和元年度　学生代表
2 年　小澤夢芽